

【オープニング】

尺八合奏 都山流本曲「八千代」 作曲:中尾都山

私(安田知博)が尺八と出合ったのは35年前。熊本盲学校で学んでいた頃です。
尺八学習の基礎になったのが、都山流尺八です。都山流の魅力の一つは、
大勢で華やかに演奏できる楽曲を持っていることです。
本日は、熊本の尺八奏者の皆様とご一緒に演奏させていただきます。
これまで支えてくださった方々への感謝と、山鹿と八千代座のますますの発展を
願う気持ちを込めて演奏いたします。

【第一部】

一.「風雲の刻」 作曲:木場大輔

おとぎコンサートの幕開けは、2011年(平成23年)初演のオリジナル曲です。
尺八と胡弓の無拍節な掛け合いによる導入に次いで、箏と琵琶による疾走感のある展開を
経て、胡弓と尺八が主題を奏でます。おとぎの編成を特徴づける各楽器のソロを順に
フィーチャーしながら、再び主題を提示して勢いに乗ったまま終曲となります。
(CD『音戯紀行』に収録 / YouTube「おとぎチャンネル」にMV公開)

二.「大漁網起し木遣」 富山県民謡(氷見市) / 編曲:木場大輔

漁業の町、氷見伝統の定置網漁の作業唄より。機械化が進む以前は、あらゆる仕事の場
において仕事唄が重要な役割を果たしてきたことでしょう。
おとぎ結成時から演奏し続けてきた、代表的なレパートリーの一つです。

三.「風の夢」～越中おわら幻想～ 富山県民謡 / 編曲:木場大輔

胡弓が使われる最も有名な伝統行事、越中八尾「おわら風の盆」。
その風の盆で演奏される「越中おわら節」をモチーフにした、幻想的な趣きのアレンジ曲です。
(CD『音戯紀行』に収録)

四.「エイヨーエ」 福岡県民謡(福岡市)「祝い目出度」より / 編曲:木場大輔

日本各地の伝統的な祝い歌をモチーフにした、全五楽章から成る
組曲「寿ぎ」～につぼん祝い歌～の最終楽章です。
2019年(令和元年)5月、新時代の幕開けを祝し、おとぎ奈良公演にて初演。
「祝い目出度」は博多のハレの舞台に欠かせない祝い歌で、博多祇園山笠で歌われるほか、
会合や宴席は「祝い目出度」の唱和に続き「博多手一本」で締めるのが通例とされています。
中盤、歌の旋律を発展させた琵琶と十七絃箏のスリングな掛け合いが聴きどころ。
終曲部分は手一本の掛け声とリズムを基にしています。

【第二部】

五.「ぐるりよざ」～キリシタンの祈り「オラシヨ」より～

作曲:木場大輔 / 琵琶語り作詞:林 隆樹・節付:川村旭芳

本作品は、長崎県生月島に伝わる歌オラシヨ※「ぐるりよざ」と、その原曲として音楽学者の皆川達夫氏が
示した16世紀スペインのマリア賛歌「オ・グロリオザ・ドミナ」の旋律を、様々な変奏を交えて構成したもの。
これまで声楽・胡弓・ピアノの編成や、胡弓と琵琶語りなどにより上演してきたが、今回の改作上演にあたり、
内容を大きく見直した。
全体の構成や琵琶語りの場面設定は、木場が能管奏者の野中久美子氏に相談し、夢幻能の演出法を借りた
もので、林隆樹氏の作詞で琵琶語りを川村が全面的に新作。それに伴い、音楽も大幅に改作している。(木場)
※オラシヨとはキリスト教の祈りの言葉で、そのうちの歌オラシヨは日本で最初の西洋音楽と言われる。禁教となってからも
隠れキリシタンとして弾圧の嵐を掻い潜り、口伝にて命がけで伝えられる中で、歌オラシヨの旋律は日本的に変容していった。

<合奏 I 伝来>

天草の灘 遥かに望む小高き丘に 遊子ひとり佇みあたり
「もうし旅の御方や」 声かけたるは 見目麗わしき娘ふたり
その傍に苔むせる小さき碑あり 娘ら そのいはれを語りて曰はく
「こはその昔 おしへを守りて神の御国に迎へられし者と
おしへを棄て 地に堕ちしものどもの 共の塚にて候」

★「ぐるりよーざ どーみの いきせんさ すんでらしーでら
きてや きやんべぐる一りで らだすで さあくらをべり」

遊子 娘らの歌ふ言葉に驚き 碑のいはれを更に不思議に思ひ
「さてもさても なにゆゑの共塚なるや
天の御国に迎へられしものと 地に堕ちしもの なにゆゑ とともに祀られたるや」
尋ねれど 娘らただ微笑みて いとやさしげに 舞ふが如くに立ち去りぬ

<合奏 II 光と影>

その夜のこゝろ 夢のうちに かの娘ふたりあらはれて曰はく
「われらは共塚に眠る者どもなり
われはくでうす・きりしと>に導かれ 踏み絵を拒みて殉ぜしもの
われは死の恐れに耐へかね 聖マリアの御顔を踏み 信を棄て<ころび>となりしものなり
その罪科を長く悔い 涙に幾年送りしに ある夜 夢にマリア観音菩薩あらはれて曰はく
<我は汝の痛みを知る者なり 悔ゆることなかれ 汝の慕ひしものの傍に眠るがよし>」

<胡弓独奏 祈り>

あくる朝 遊子ふたたび碑を訪ねれば そのおもての文字 風雨にうたれて すでに読みがたく
されど ただ碑の裏 小さきクルスの二つの印のみ判じえたり
ああさればこそ むべなるかな そのもとに紫苑の花 二もと あはれしづかに咲きあたり

<合奏 III 継承>

★オラシヨ「グルリヨーザ」 原曲聖歌「O gloriosa Domina」(皆川達夫)
O gioriosa Domina, excels super sidera, qui te creavit provide, lactasti sacro ubere.
《訳》輝ける聖母よ 星空越えてはるかに居ます御母よ 汝を造られた方を御胸により清き乳房もて育まれた(加藤 武)

六.「ぞめきヨヘホ」 熊本県民謡「よへほ節」より / 編曲:木場大輔

山鹿灯籠まつりでお馴染みの しっとりしたお座敷唄風の民謡を、阿波踊りや鹿児島のおはら節
にも通ずる黒潮系の熱いリズムに乗せて、本日のフィナーレにお届けします。
(CD『音戯箱Ⅱ』に収録)